

# 四日市大学留学生新聞

21号

編集 朴慶姫(メディア3年) 梁青(経済2年) 凌青(経営3年) 顧幸佳(経営3年)  
杜錚(メディア3年) 武曉娟(経営2年) 周大偉(環境情報2年)

## 多文化共生社会を考えるプログラム

私たちは大学祭の時多文化共生グループディスカッションに参加をしました。私たちのグループは6人のグループでした。グループメンバーは高校生二人、社会人学生一人、日本語ボランティア一人、留学生二人です。留学生は中国人一人とネパール人の私でした。ファシリテータはアメリカ人のダニエルカーク先生でした。私たちのグループのテーマは世界の大学や高校を比較して見るとどのような相違点があるのか、それはどのように解決するべきか、理想的な学校とは何かでした。メンバーの立場も国籍も違うのでいろいろ調べやすかったです。



中国、ネパール、日本と比較して、中国とネパールではサークル活動が活発ではないが日本の大学にはサークル活動が多いです。中国、ネパールでは学生履修科目を選ぶことができず学校で決められた科目を勉強するシステムです。それでなかなか学生が興味ある科目を勉強できない場合もあります。中国では大学に入学するのも卒業するのも大変です。日本やアメリカの教育では知識や基礎的な学力を重視しているが、中国やネパールの教育ではそれが身に付いていません。私は母国ネパールにも日本と同じ教育システムがあればこれからのネパールの社会を変えることができるのではないかと思います。最後に私たちは新しいテーマとして世界の国々の学校の良い所を合わせたら、勉強の意欲は上がるのだろうか。と思いました。今回のディスカッションは私にとっては非常に良い機会だと思いました。

経済学科2年生 ガズレル サントス

## 工場夜景サミット IN 四日市への参加

工場と観光の間はどんな関係だと思いますか。以前は工場と言えば黒い煙や臭い廃液などのイメージです。しかし今そんな様子完全に変わりました。第2回工場夜景サミット in 四日市が11月10日に四日市都ホテルで開催されました。今回のサミットでは工場と観光について新しい提案がされました。四日市コンビナートの環境改善に伴って夜のコンビナートは夜景観光ができるようになりました。



私は加納先生と他の学生と一緒にコンビナート夜景クルーズを体験しました。夜、日暮れが訪れてみんな船に乗って観光が始まりました。私たちは千歳地区の千歳棧橋から出発しました。周りの照明はさざ波が立っている海水に照り映えていて、すごく綺麗でした。工場に沿って四日市の旧港と第2コンビナート午起地区に着きました。色とりどりに輝く建物を見ましたが、全く工場とは結びつきません。前に進むと四日市ドームとオーストラリア記念館が目に入りました。すると、第3コンビナート霞ヶ浦埠頭に到着しました。そこには東ソー(株)の事業所があります。船のデッキから長島温泉が見えました。ここで船は方向を転じて第1コンビナート塩浜地区に航行しました。一番、夜景が美しく見えるポイントです。ここは昭和30年代、旧日本海軍燃料基地跡に建設されました。ツアーガイドの解説を聞きながら素晴らしい景観を見て一時間のツアーが終わり、出発地に戻りました。コンビナートの観光はかつての物見遊山型観光から体験観光と学習観光に変化しました。昼と夜の観光が共に発展するため、工場と町の繁栄のため、みんなでアイディアを出して新たに観光環境を作るため、一緒に頑張りましょう。

経済学科2年生 劉 佳利(リュウ カリ)

## 中国

10月22日、23日に開催された大学祭で、中国人の私は母国の味を多くの方に伝えたいと思い、中国の仲間と相談したうえで、中国の伝統的な食べ物「水餃子」の模擬店を出店することにしました。

中国には「心さえ込めれば誰でも美食家」という諺があります。これを心掛けて行動してみました。料理は素人の私達ですので最初少々不安でしたが、水餃子を食べていただいた皆様からの「一つ一つに心がこもっていて、美味しいわ」とか「さすが本場の中国水餃子」などの言葉に支えられました。このような言葉があるからこそ、美味しい水餃子が作れると考えております。なぜかといえば、認められることは、何よりも私達の原動力になると思うからです。この原動力のおかげで、男女や国籍や学部、学年などを越えて、皆が一丸になったと私は実感しました。美味しい水餃子を提供しているというよりむしろ「水餃子」が私達を成長させたと実感しました。このような経験が、これから私達の人生のどこかできっと役立つに違いありません。またぜひ、いろいろなイベントにチャレンジしていきたいと思っています。

経営学科2年生 陳 瑤 (チン ヨウ)



## ベトナム



私は今、まだ1年生なので、初めての大学祭参加でした。色々な体験をし、色々な感想を持ちました。

日本に来てから、買う側である客としてさまざまな祭に行きましたが、今回の祭で私はお客さんだけでなく、売り手として自分の国の料理を販売しました。私はベトナム留学生とともに「BUN RIEU」というベトナム風のうどんを作って、売りました。私たちは初めて自分で料理を作り売ることになり、売る前にお客さんが沢山来るかどうか、お客さんにとって私たちの料理がおいしいかどうかと考え、とても心配しました。でも、売り始めてから、お客さんが沢山来て、買って来て、食べた後、

「おいしい」、「うまい」とほめてくれました。とても早く売り切れになり、私たちはとてもうれしかったです。さらに、その日、私も「AO DAI」というベトナム民族衣装を着て接客し、お客さんは関心を寄せてくれました。本当にうれしかったです。

しかし、私にとって一番うれしい事はベトナムの料理や文化など、ベトナムについてさまざまな人に紹介し、交流できたことです。留学生の私達にとって、文化交流のために大学祭は本当いい機会だと思います。大学生活の中で、今回の大学祭の思い出や体験は忘れられないことだと思います。来年、また参加したいと思っています。

経営学科1年生 チャン ヴァン アン

## ミャンマー

全ての川が海に集まります。海洋のような所が、四日市大学と言ったら、言いすぎでしょうか。

文学や音楽、文化や芸術など全部を一瞬で見られる大学祭。異文化が感じられるミャンマー、ネパールの展示会と留学生の店。地域を大切にする『とんてき店』、鉄道旅行研究とタイ研修の展示、それぞれ一生忘れられません。

その中で、私も母国ミャンマーの展示会を担当しました。そこで、中国人とネパール人の留学生達に手伝ってもらいました。ベトナムうどんを食べに行ったら、券を売っているのは中国人の先輩、私の目の前で中国の水餃子を美味しく食べていた日本人の先輩、それぞれに責任感に溢れ誰に対しても壁がない皆の心が見えます。

土曜、雨を気にせず速やかな動作、日曜、太陽の光より輝いている健やかな笑顔、日本人学生をはじめ、アジア各国の留学生の姿、それぞれが四日市大学のあり方ではなく何でしょうか。教育を与える、若者を成長させる役割だけではなく、国際交流の役割も果たしています。そんな大学の学生として、母国の文化を紹介させて頂いた、私の誇りはどんな言葉でも表せないほどです。



総合政策1年生 ネイ ミョー ティハ ハン

## ネパール



平成23年10月に四日市大学で行った大学祭は、始まる前からとても楽しみでした。私はお祭りが大好きだからです。多くの人と一緒にお祭りを作り上げ、盛り上がることはとても素敵だと思うし、何よりも楽しいからです。

しかし、お客さんが来てくれるか、ちゃんとネパールのことを伝えられるか、前日は少し不安な気持ちもありました。でも、いざ当日になると学校の雰囲気もいつもと変わり、学校にいただけで楽しい気分になりました。そのおかげで、前日の不安な気持ちは一気に吹き飛んで心から楽しむことができました。

お客さんがネパールに興味を持ってくれることは、とても嬉しいことです。普段あまり話さない人達とも触れ合うことができ、たくさんお話しすることができたことは、とても嬉しく、自分にとってとても良い機会だったと思いました。

文化祭は、あっという間に終わってしまい、終わった後は少し寂しい気持ちになりました。

来年も参加したいです。来年はもっと多くの人と関わりたいです。心から楽しむことができました。

環境情報学科1年生 ダンゴル ショバ

## 参加者の感想

## 観覧者の感想

## 外国人日本語 スピーチコンテスト



私は、環境情報学部二年生です。「第8回四日市大学留学生日本語弁論大会」に出場しました。二年間、環境について学んでいる間に、環境問題は国境を超えた国際問題となり、どこの国でも非常に重要な問題になっています。そのことをぜひ伝えたいと思い、「環境問題からの思い」をテーマにスピーチしました。

テーマを決めてから夏休みの間、自分で練習するだけでなく、大学の先生に指導してもらい、たくさんコメントもいただきました。私は、何度も何度も練習しました。先生は発音まで指導してください、とても丁寧に教えてくださいました。

弁論大会当日、ステージに立ってとても緊張しましたが、今まで練習してきたことと先生の指導を思い出し、落ち着いてスピーチすることが出来ました。

私は、今回の弁論大会に出場し、本当にいろいろなことを勉強し良い経験ができたと思います。他の学生のスピーチ内容は、東日本大地震からの思いや日本のお祭り、そして夢の大切さなど様々でした。留学生たちは、日本で生活を通して、日本社会、日本文化や日本人の生き方などを学びます。自分が感動したことや母国と異なる文化や考え方などを、母国の言葉ではなく日本語で日本人たちに伝えることは、本当に素晴らしいと思いました。「四日市大学留学生日本語弁論大会」は国際交流の場の一つとして、留学生たちの意見や考えなどを発表できる、とてもいいチャンスだと思います。

環境情報学科2年生 李 蓉(リ ヨウ)

10月13日、四日市大学留学日本語弁論大会に参加しました。みんなの発表を聞いて、本当に感動しました。一人一人のテーマについて話を聞いて、素晴らしいと思いました。自分は、まだまだ大勢の前で話すのは無理です。ですから、出場している人は本当にすごいと思いました。それだけではなく、色々な話を聞いて勉強になることがたくさんありました。自分も頑張らなければと思います。スピーチの内容は、日本の祭りのことや相手の頭を叩くことはよくないことなどです。また、他大学の学生も出場しました。

みんな頑張って自分の意見を発表しました。みんなの発音はきれいでした。同じ大学で勉強して、同じ留学生なのに、どうして自分はできないのかと思います。ですから、今からもっと頑張らなければなりません。日本語を頑張って勉強しようと思います。

経営学科1年生 チャン ティ ツウイ

高校の時から、みんなの前でスピーチすることが格好いいと思ったので、好きで、よくスピーチ大会に参加しました。今回のスピーチ大会では以前と違って、はじめて日本で、留学生として日本語のスピーチをしました。

スピーチ大会のお知らせを見たとき、友だちに「参加しますか」と聞きましたが、みんなは、「参加しないよ」とはずかしいような顔して言いました。私は勇気を出してチャレンジしてみようと思いました。

それから、原稿を書いて、先生に日本語の間違いを直してもらって、練習して、11月23日に鈴鹿国際大学のスピーチ大会に参加しました。とても緊張しましたが、いい体験ができました。

留学生として、日本で頑張っている私たちは、自分の目を見て、日本の文化や社会問題などに、特別な観点を持っています。スピーチ大会という機会でも、自分の心の声、自分の意見、感想をたくさんの人に伝えることができ、本当に得難いチャンスです。

スピーチ大会を通じて、私は文章の表現能力が高まり、日本語の発音も上手になり、鈴鹿国際大学で、さまざまな国籍の留学生たちと日本語の勉強についてコミュニケーションもできました。日本語の勉強には、本当に役に立ちました。

日本で活躍している私たち留学生はたくさん言いたいことがあると思います。みなさん、恥ずかしがらずに、スピーチ大会に参加しましょう！

きっと、貴重な一生の思い出になると思います。

経済学科2年生 田 野(デン ヤ)

## 桑名の千羽鶴を広める会

映像を通じて地域貢献をしている四日市大学の学生集団 Movie Zoo (\*) が、中国語の千羽鶴の折り方 DVD を作成しました。9月24日に桑名市内の六華苑で開催されたイベント（主催：市民団体『桑名の千羽鶴を広める会』）でこのDVDを披露するとともに、10名程の本学留学生も同イベントに参加し、1枚の紙から親子2羽の鶴を折る折り方に挑戦しました。

この企画は、世界中に桑名の連鶴を広めて行きたいとの思いがあった『桑名の千羽鶴を広める会』と Movie Zoo (\*) との間で、「コラボレーションで、中国語での折り方の映像を作りましょう！」ということで実現したものです。

ナレーションを担当した中国人留学生の劉佳利さん（経済学科2年生）は、微妙な日本語の言い回しを中国語に翻訳するのにかなり苦労したようですが、その甲斐あって他の留学生からは「とてもわかりやすい」と好評でした。

今後は本学留学生の協力を得ながら中国語以外の映像も作成して行く予定です。

経済学部 鶴田 利恵先生

(\*) Movie Zoo については、下の記事をご覧ください。



### <Movie Zoo のご紹介>

Movie Zoo は、企業や市民などを撮影し You Tube などにアップしています。

今年度の Movie Zoo の活動は、陶芸家である岩田さんを大学に招き、陶芸の体験会を行って、それを撮影したり、桑名の千羽鶴の体験会に参加したり、よんよん祭を撮影したりなど色々撮影してきました。

その中でも今回私たちが体験した桑名の千羽鶴について書きたいと思います。そもそも桑名の千羽鶴を知っている人は、少ないと私は考えています。桑名の千羽鶴は、古くからあるらしく、折り方は数十種類以上あるのです。しかも千羽鶴は、全て1枚の折り紙から作られています。

私たちは、桑名の千羽鶴の中でも比較的簡単な折り方の鶴を作りました。最初は、私たちが制作した“中国語版の一羽の鶴の折り方”という鶴を折るにあたって大切なことを撮影したものを参加者と一緒に見ました。留学生の人たちやその他の参加者はその映像を見ながら一生懸命に一羽の鶴を折っていました。

次に桑名の千羽鶴の中でも比較的簡単な鶴を作りました。簡単といっても少し気を抜くと折り紙が破れてしまいます。皆さんは、折り方を教えてもらいながら集中して作っていました。皆さんの折り鶴は、きれいに出来ていました。

このように、体験会などを通して現地の人や企業の人と交流ができます。交流することで、普通では得られない事が得られると思います。もし Movie Zoo に入りたいと思われましたら、経済学部の岡先生または鶴田先生に聞いてください。

経済学科1年生 伊藤 康佑

## グローバル人材のためのキャリア支援



今年で2年目の開催となる「グローバル人材のためのキャリア支援プログラム」が、10月29日から、近鉄四日市駅前・じばさん三重の会場で始まりました。今回は、21名の学生（2年生・3年生）の応募がありました。

本プログラムは、四日市大学で学ぶ日本人学生及び留学生が、卒業後、グローバル人材として国内外で活躍するための基礎作りを支援することを目的としています。日本人学生と外国人留学生との混合クラスを編成することにより、多様なバックグラウンドを持った学生チームが、お互いの価値観や文化的背景を尊重しつつ学習を進めていきます。毎回の講義は、演習やグループワークを多く取り入れ、学生からの自発的な発言や行動を促します。

プログラムを聞いて改めて思うことは、「企業では、主体性のある行動ができる人がなにより求められている」ということです。そのためには、大学生活全体を、主体的に考え、充実したものにする必要があります。

受講された皆さんはもちろん、留学生の皆さん、就職にせよ進学にせよ、自分の学生生活をもう一度見直してみてください。

プログラム実施責任者 経済学部 岡 良浩先生



### <参加した学生の感想>

平成22年度の四日市大学グローバル人材のためのキャリア支援プログラムに参加し、身につけたことは以下の通りです。

自己紹介：名前と出身だけではなく、短く簡単に、相手に自分のことを知ってもらえるための自己紹介をすることです。

日本の就職活動の流れは：

1. 自己分析、企業・業界研究
2. WEBエントリー
3. 応募書類（エントリーシート）の作成・提出
4. 企業説明会・セミナー
5. 筆記試験・適性検査
6. グループディスカッション
7. グループ面接・個人面接
8. 役員（最終）面接
9. 内定
10. 入社

就職活動に必要なビジネスマナー：社会人としてのマナーの基本は身だしなみと挨拶です。身だしなみの三原則は「清潔」、「上品」「ひかえめ」です。挨拶の基本は「ビジネスは、挨拶に始まり、挨拶に終わる」というものです。笑顔で、明るく、元気に、相手の目を見て、最後にお辞儀をします（語先後礼）。

自己PR、志望動機、エントリーシートの作成演習：自己PRは自分の情報を言うだけではなく、初対面の相手でも、自分の長所、自分の強み、自分の経験や特技などを知ってもらうためにアピールします。エントリーシートとは、履歴書とともに、企業が採用する時の応募書類として利用する書類です。

グループディスカッション・面接対策：面接のポイントや模擬面接を体験しました。とても参考になりました。

日本企業におけるダイバーシティマネジメントについて、株式会社エスワイシステム人材開発グループの講義を聞き、プログラムの終わりに、実際に「パナソニック電工株式会社 津工場」を見学したことも勉強になりました。

このプログラムで身につけたことは自分の就職活動にとっても役に立ったと実感しています。

私は来年日本企業での就職を目指すゼミの先生や先輩の紹介で「四日市大学グローバル人材のためのキャリア支援プログラム」に参加しました。私と同じように来年日本企業に就職しようと思う留学生の三年生が多いと思っていましたが、今年は二年生の方が多かったのでびっくりしました。講義は4回が終了したところです。毎回違う内容で就職に関する話を聞き、意見交換とグループ発表がありビジネスマナー、工場見学があって、非常に良い勉強をする機会だと思いました。講義の中で思考力、プレゼンテーション能力、日本語の記述能力などを高めることができます。細かい自己分析や志望動機など事例を取り上げながら教えてくれます。書いた文章も訂正してもらえます。これから本番の就職活動に役立つと思います。一番印象に残っているのは第1回目です。テーマは、学生から社会人へグローバル人材に求められる能力でした。先生がメモ用紙を配り、仕事をするために自分が必要だと思う五つの能力を書いてくださいと言われました。あまり考えたことがないので最初は書けませんでした。先生が配った資料を参考にしながら書いてもいいですと言われ全員が書きました。書き終わった後4人のグループになって意見をまとめて、最後に一人がみんなの前で発表しました。わたしは発表者になって初めてみんなの前で発表しました。とても緊張しました。発表が終わった後キャリアビジョンを描き、三年後、五年後、十年後の自分像を描くことによって、今することわかってきました。

経営学科3年 于 麗娜 (ウ レイナ)

## 日本語勉強コーナー

### 手を使った日本語の表現

手がない：人手が足りない。

手が長い：盗癖がある。

手が出ない：自分の能力を超えていてどうすることもできない。

手が開けば口があく：仕事がなければ暮らしが立たない。また、暇になれば無駄話が多くなる。

手が入れば足も入る：ささいなことを許せば、果てしなく侵されてしまうことのとえ。

手が塞がる：何かをされていて、ほかのことはできない状態である。

## 社会人の方からの寄付金贈呈

私は留学生会副会長として留学生を代表し、社会人の方からご寄付を頂きました。四日市大学社会人学生応援団は、毎年、大学祭でバザーなどを行い、大学祭の売上金を留学生のためにご寄付いただくということを聞いたことがありました。今回、実際に交流したり、話したりして、暖かい部屋で、温かい心を感じました。本当に感動したこと、ありがたいということを伝えたいです。社会人の方は中国のことについてよくご存じでした。ベトナムはいつかいらっしゃったら、いいと思います。短い時間しか話せませんでした。温かい心を頂き、外国人と日本人との間に距離はなく、年齢も区別がないと感じられました。これからも、留学生たちに関心を持ち応援していただければ嬉しいです。私たちはそれを努力と応援のメッセージとして生活の中に生かし、頑張って勉強し、地域に貢献したいと思います。



経済学科2年 ビェン ヴァン フィー

## 平成 23 年度 四日市大学私費外国人留学生奨学金授与式

11 月 30 日、四日市大学私費外国人留学生給付奨学金授与式が行われ、宗村南男学長より、下記の留学生に授与証書と奨学金が手渡されました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

李 秀萍 (経済学科 3 年 リ シュウヘイ)  
GAJUREL SANTOSH (経済学科 2 年 ガズレル サントス)  
孟 娜仁高娃 (経済学科 2 年 モウ ナリングワ)  
胡 青 (経営学科 2 年 コ セイ)  
朱 志娟 (経営学科 2 年 シュ シケン)  
張 佳琳 (経営学科 2 年 チョウ カリン)  
俞 武 (経営学科 2 年 ユ ブ)  
朱 之林 (メディアコミュニケーション学科 2 年 シュ シリン)  
金 鋒 (総合政策学科 2 年 キン ホウ)  
伍 宇翔 (総合政策学科 2 年 ゴ ウショウ)



## 平成 23 年度 宗村南男奨学金授与式

12 月 7 日、宗村南男奨学金授与式が行われ、宗村南男学長より、受賞者の環境情報学部環境情報学科 3 年生張 博 (チョウ ハク) さんに奨学金と授与証書が手渡されました。この奨学金は、成績優秀はもちろんのこと、大学・地域社会へ大きく貢献した留学生に贈られる奨学金です。張 博さん、おめでとうございます。

## 平成 22 年度後期・平成 23 年度前期成績優秀者奨学金授与式

12 月 13 日、平成 22 年度後期並びに平成 23 年度前期成績優秀者奨学金授与式が行われ、四日市北ロータリークラブ様より、下記の留学生に奨学金が手渡されました。受賞者のみなさん、おめでとうございます。

### \*平成 22 年度後期成績優秀者

梁 青 (経済学科 2 年生 リョウ セイ)  
鄭 英蘭 (経営学科 4 年生 テイ エイラン)  
顧 幸佳 (経営学科 3 年生 コ コウカ)  
程 榕 (経営学科 3 年生 テイ ヨウ)  
凌 青 (経営学科 3 年生 リョウ セイ)  
李 蓉 (環境情報学科 2 年生 リ ヨウ)  
趙 天浩 (メディアコミュニケーション学科 2 年生 チョウ テンコウ)  
満 都拉 (総合政策学科 4 年生 マン ドラ)

### \*平成 23 年度前期成績優秀者

李 秀萍 (経済学科 3 年生 リ シュウヘイ)  
姜 蔓 (経済学科 2 年生 キョウ マン)  
王 冰 (経営学科 2 年生 オウ ヒョウ)  
陳 梅芳 (経営学科 2 年生 チン バイホウ)  
孫 萃佳 (環境情報学科 1 年生 ソン スイカ)  
金 景岩 (環境情報学科 1 年生 キン ケイガン)  
張 瑤 (環境情報学科 1 年生 チョウ ヨウ)  
NAY MYO THIHA HAN (総合政策学科 1 年生 ネイ ミョー ティハ ハン)

